

令和3年度 学力向上を図るための全体計画

学校番号06 練馬区立豊玉南小学校

<関係法令等>

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学習指導要領等

<各教科の指導の重点>

各教科において、以下の力を育てる。

(国語) 自分の考えや思いを言葉や文章で豊かに表現する力

(社会) 社会的な事象の意味を考え表現する力

(算数) 見通しをもち、筋道立てて考え表現する力

(理科) 自然の事象に対して進んで働きかけ、自ら問題を見付け、解決していく力

(生活) 対象と自分とのかかわりに関心をもつ力・進んで活動する力

(音楽) 学習したことを生かして、音楽を楽しみながら工夫する力

(図画工作) いろいろなものや事象の特性を感じ取り、自分のふさわしい造形表現をしようとする力

(家庭) 家庭生活に主体的にかかわり生活をよりよくしようとする力

(体育) 進んで仲間とかかわりながら、課題をもって楽しく運動する力

<外国語活動の指導の重点>

- ・外国の言語や文化への興味関心を高め、それらを尊重する国際感覚を養う。
- ・様々な人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
- ・音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

<総合的な学習の時間の指導の重点>

- ・教科と関連を図り横断的・探究的な学習を行う。
- ・地域とのかかわりを通して活動を行い、地域社会に対する参加意識や関心を高める。
- ・生産や情報活用など体験的な活動を通して、高学年としての自覚や自分の生き方について考えさせ、豊かな心を育てる。

<学校教育目標>

社会の変化に主体的に対応し、国際人として世界の人々から信頼と尊敬を得られる、心身ともに健康で人間性豊かで調和のとれた人間形成を目指す。

【基底目標】

◎考える子（重点目標） ○思いやりのある子 ○元気な子

学校経営方針（学力に関して）

豊南小の子供たちが生き生きと全力で学習・活動できる学校にする。

< 学習指導の目標 >

・「めあて、問題、見通し、自力解決、共有・再考、まとめ、適用」の段階をはっきりさせた授業により、自ら考え自ら学ぶ学習、互いに学び合う学習を行う。

・各種学校行事に、学年の発達段階に応じためあてをもたせ、児童自身に役割を自覚させ取り組ませる。

・児童自らが健康に関心をもち、自己の課題を把握させながら体力の向上を図る。

< 中期目標 >

学力調査の成績分布にみられる下層群を引き上げる。

基礎・基本の定着 (知識・技能の定着)

学習規律の確立と徹底

朝学習 (モジュール) の充実

家庭学習 (学年×10分) の習慣化

授業時間外 の学習指導 の推進

【確かな学力の向上】

主体的・対話的で 深い学びを意識した 学習活動の実践

全学年で算数 少人数指導を 実施

課題解決能力の育成 (思考力・判断力・表現力等の育成)

タブレットPC、 デジタル教科書の 活用

国語辞典の 活用

<児童の実態>

【 全国学力・意識調査受けて(6年) 】

- ・全国平均を上回る状況にある。
- ・問題解決に必要な情報を収集・整理・選択する力に課題が見られる。
- ・相手や目的・意図に応じて、情報や内容が伝わるように表現する力(書くこと)に課題が見られる。

【 全校児童の実態 】

- ・自分の考えを根拠や理由を明らかにして適切に表現することに課題が見られる。
- ・友達の考え方を取り入れながら自分の考えを変えたり再構築したりすることに課題が見られる。

<道徳教育の指導の重点>

- ・特別の教科 道徳の充実を図り、児童が自己の生き方について考えを深め、豊かな心を育成する教育を推進する。
- ・全教育活動を通して、互いに人格・人権を尊重し合い、思いやりの気持ちをもって道徳的な実践ができるよう、道徳性の育成を図る。
- ・道徳的実践の場としては、特別活動の充実に努め、児童の道徳性を内面から高める指導と評価を適切に行う。

<特別活動の指導の重点>

- ・集団の一員としての役割を自覚させ、自己を伸ばす実践的な活動を進め、責任感や思いやりなどの社会性を育てる。
- ・学級活動の指導を中心として、「集団の一員として考え、実行できる児童の育成」を図る。

<生活指導の重点>

一人一人の児童に所属感、存在感、充実感をもたせ、主体的に安全で快適な生活づくりをしようとする児童を育てる。

- ①子ども支援部・生活指導職員会議による組織的対応
- ②生活指導職員会議・生活指導職員夕会における教職員間の生活指導事項の共通理解

<進路指導の重点>

- ・児童一人一人の能力や適正を正しく把握し、自己の将来に希望や生きがいがあるよう指導援助する。
- ・学校生活の中で、自己のよさや役割について意識化させる生き方の指導に努める。
- ・校区別協議会や小中連絡会、体験入学等を通して中学校との連携を図り、勤労観や職業観をもてるようする。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫・教育環境の整備	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> ・評価を生かした指導の工夫 ・算数科における習熟度別指導の工夫 ・発展的な学習・補充的な学習の開発 ・体験的・問題解決的な学習の重視 ・ノート指導の充実、話し合い活動の設定 ・東京ベーシックドリル診断シートの結果を活用した反復練習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習を主体とした学習過程の充実 ・学校図書館支援員を活用した学校図書館の充実と読書活動の推進 ・問題解決的な学習を充実させるためのタブレットパソコン、電子黒板、ICT機器、学校図書館等の活用 ・特色ある教育活動の充実(百人一首・季節の一句) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の考えや思いを正しく伝えることができる児童の育成～国語科の学習を通して～」を研究主題とした指導方法の改善 ・校内研究における6回(全学年)の授業研究の実施 ・校内OJTの充実と効果還元 ・教員間における相互授業参観の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のよさを見取ることができるような評価の工夫 ・授業改善を図るための自己点検シートや授業観察シートの活用 ・評価計画の作成と改善 ・主体的に学習に取り組む態度の評価の試行 ・あゆみの見方を活用した保護者との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開、道徳授業地区公開講座の推進 ・保護者の教育活動への参加 ・地域の材確保と活用 ・小学校見学を主とした幼保小連携の推進 ・教育内容に合った地域施設の活用と連携体制の確立 ・保護者・外部評価等を活用した授業改善、教育活動の更新・改善 ・地域未来塾を活用した放課後算数教室の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の校区別協議会での授業公開による相互理解と情報交換 ・課題改善カリキュラム、9年間を見通したスタンダードの実践・見直し

